

教育長だより No. 33

2023年3月16日

昨年度の改訂版です

「えっ！ そんな異動って？」

～ 私の異動経験から ～

学年末を控え、教職員のみなさんにとっては人事異動の季節がやってきました。私は、大阪の中学校を振り出しに定年退職まで実に9回の転勤を経験しました。おかげでいろいろな人との出会いや多様な経験をしました。中でも驚きの体験が2つあります。紹介します。

1. わずか2年での異動

内示の日（以前は、ずっと学年末の修了式の日午後でした。）、私は大阪から近江八幡市の八幡東中へ転勤してまだ2年目だったので、いわゆる「異動の対象外」でした。修了式の午後は部活（ソフトテニス）を入れていたんです。子どもがケガをしたのでお医者さんに連れて行ってました。3時過ぎに学校に戻ると、同僚の先生から「校長先生があんたを探してたで。」とのこと。私、「何やる？」と思いながら校長室に行くと、「悪いなあ。転勤してもらったことになったんや。」と校長先生。「えっ！」と私はびっくり。「校長先生、ぼくまだここ（八東中）に来て2年ですよ。そんな異動ってあるんですか！？」と聞き返しました。校長先生は申し訳けなさそうに「すまんなあ。まあ、教育委員会いうても、おんなじ校区内の集会所やから、しょっちゅう学校には来てもらわんならんし、・・・。」と続けました。

ここで教育委員会への異動はいわゆる「5年10年」（当時）という基本の例外であることを知りました。

2. 二枚替え（校長・教頭の同時異動）

もう一つ思い出深いのは、校長と教頭が二人同時に異動になったという経験です。

私は市教委（近江八幡市）の課長補佐から八幡中学校の教頭になって1年が終わろうとしていました。そして、校長先生は定年退職。ですから、教頭の私の異動なんて「あるはずもない。」と思っていました。ところが、です。またしても異動でした。それまでの同和教育指導課が大きく改変され、人権教育課が発足するのに合わせて私をその課長へとのことでした。私は八中在籍がたった1年でしたが、あとの学校運営が心配でした。だって、学校のことを少なくとも「よく知っている管理職」が二人とも替わるんですから。そんな話を校長先生としていると、「教頭先生、わしらはいつ異動を言われてもええように備えとかなあかんのやで。『管理職は1年1年が勝負なんや。』よう覚えときや。」と言われました。

次の一年を考えることは大切です。でも、それ以上に「今」を精一杯がんばることも。

（裏面へ）

3. 教育部長との雑話

さらに、異動は全く新しい人（教職員や地域）との『出会い』でもあります。「ぬるま湯」に浸(つ)かっていたと思うようになったら、自身の成長は望めません。「一段階ステップアップできるチャンスをもたらした。」と考えると、「意欲」も湧いてくるのではないのでしょうか。いろんなことに挑戦できるせっかくの機会なんですから。

人事異動にかかわって、ずっと前の部長との話を紹介します。

部長「そろそろ（学校の）先生の（異動の）内示が出るころやなあ。」

3月の半ば過ぎ、私が市教委（近江八幡市）にいるとき、当時の教育部長（行政職）からこんなことを言われました。※今は人事異動のシステムが変わっているかも知れませんがご了承ください。

私「はい。毎年（3月）24日の修了式の日の日からです。」

部長「そうか。（転勤まで）1週間もあたらええなあ。」

私「何ですか？」

部長「いや。そんだけ（期間が）あたら、心の準備もちょっとはできるやろ？」

部長「先生、わしら行政のもんは（異動まで）3日やで。毎年（3月）28か29日に、紙（異動内示）1枚もらうだけや。それで、4月1日からはその部署で仕事せなあかん。なんせ気持ちの切り替えに苦労するんや。」

私「そうなんですか。3日やたら、引継ぎもその間ですか？」

部長「そうやで。新しい職場で、次の仕事の引継ぎだけやない、今の職場に次に来る人との引継ぎもあるから、毎年、年度末はビクビクや。ちゃんと次の人に引き継げるように、（仕事や資料を）まとめとかなあかんからなあ。3月はホンマせわしないで。」

私「そら大変ですね。けど、（行政職員の）みなさん、ようやはりますね。」

部長「まあ、そういう仕事選んだんは自分やからなあ。しゃあないわ。」

部長「ところで、先生らの異動って、3つまで希望聞いてもらえるらしいやんか。うらやましいなあ。」

私「まあ、県（費教職員）は、そういうシステムになってるもんで。・・・。」

部長「先生ら、どこへ行っても、子どもに勉強教えるっていうことは変わらんしなあ。まあ、教える子の学年は変わるかもしれんけど。・・・。先生、わしら今はこうして教育委員会の仕事してるけど、異動したらその日から道路工事の現場に立ってるかもわからん。福祉で介護の相談に乗ることもあるし、また、税金の取り立てに行くこともある。行政（職）っちゅうのは、行った部署で全く違う業務をせなあかん。知らんかってても、市民からしたら役所の（その業務の）担当者やねんから、仕事知っててあたりまえ。周りの人に聞いてでも答えなあかんやろ。そこがづらいとこや。役所ってとこは、とにかく仕事の範囲が広いからなあ・・・。わしも、あと1年で定年（退職）や。自分ながら、ホンマ、ようやってきた思うわ。」

部長「ぼやいてもあかんわなあ。この仕事選んだんは自分なんやから。けど、いろいろ（業務を）やってきて、今から思うたら市役所っておもろいとこやったわ。しんどいこともいっぱいあったけど、いろんな経験さしてもろた。何言うても一番は市民からの『ありがとうやで。』という言葉やったなあ。」